



# からかみ

県板だより

平成23年7月15日

第二十五号

発行所 石川県板金工業組合 TEL 076-242-3050  
金沢市弥生2-1-23 FAX 076-245-2218

## 取り巻く厳しい環境を全員の力で乗り越え、 組合員の経済的地位向上を目指し、着実な歩みを！



理事長 勝 泉 完

このたび、第41回通常総会に引き続き開催された第1回理事会において、理事長に再選いただきました。誠に身に余る光栄であります。組合の円滑な運営とより一層の発展に今後とも精一杯努めてまいりたいと改めて気持ちを引き締めています。

また、通常総会におきましては今年度の事業計画、収支予算など、提出しました議案の全てについて慎重な審議の上、原案どおりご承認をいただきました。厚くお礼申し上げます。事業の有効適切な推進、予算の適正な執行等に努めてまいりますので、組合員の皆様のご指導ご鞭撻を賜りますとともに、組合運営、事業活動等により一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、業界の長引く不況、組合員の高齢化と健康問題、後継者の不在、組合員の減少等々、組合並びに組合員を取り巻く環境は依然として極めて厳しい状況にあり、先行きが不透明であります。しかしながら、手をこまねいてはこの難局を打開することはできません。

このような状況にある時こそ、第62回全国大会を成功させた底力をバネに、組合の団結力、相互扶助の精神を大いに発揮する必要があります。関係機関・団体と連携を密にし、組合員同士お互いに手を取り合って汗をかきながら顧客を掘り起こすと同時に、適正価格を維持し、高い技術技能をもって信頼が得られる施工を行うことが大切だと思います。また、地域にあっては社会貢献活動を積極的に行うことも必要でありましょう。こうしたことを通して、目の前の壁を一つひとつ乗り越え、組合員の経済的・社会的地位の一層の向上を図っていかねばならないと思っております。

今年度は、通常総会でご承認をいただいた事業計画を確実に推進していくことが当面の課題であります。私なりの具体的な思いの一端を述べさせていただきます。組合の活力が低下しないようしっかりと対応していきたいと思っております。

- ① 組合は厳しい財政事情にありますが、組合員の負担をできるだけ増やさず、健全な財政を維持できるよう、財源の確保と有効適切な予算執行等を図っていききたいと思います。
  - ② 組合方式である責任施工保証制度は、様々な課題を抱えたまま今日に至っており、そのため、制度の活用が低迷しておりますが、自主検査の大幅な導入、申請料の低減、事務手続きの簡素化など、制度を抜本的に改善し、皆様に活用してもらえる制度に改革していききたいと思います。
  - ③ 公的資格の取得は今後ますます重要な要件となってくると思っておりますので、若手従業員等の自己啓発対策、資格取得支援対策を事業主のニーズに応じて計画的、継続的に実施していきたいと思っております。
  - ④ 組合ホームページの外部からのアクセス件数が予想以上に多いことから、ホームページ上の組合員名簿の充実を図り、地域住民に対して丁寧なPRになるように、また、将来一つでも受注につながるよう充実していきたいと思っております。
  - ⑤ 公的助成金の活用は組合運営の財源確保の上でも有効な手段でありますので、幅広い観点からその活用を図っていききたいと思います。
- 今年度は差し当たり中小企業庁の目玉事業である「新卒者就職応援プロジェクト」に取り組

むことといたしました。これは組合員の事業所における職場体験を通して就職応援を行うもので、組合としては一種の社会貢献活動であります。組合にはコーディネイト機関として対応の事業費補助収入があり、また、受入事業所には教育訓練費助成金として日額3,500円、職場体験生には技能習得支援助成金として日額7,000円、それぞれ支給されるものです。既に5事業所で7人の職場体験生が実習を行っています。

職場体験生を捜すことは容易ではありませんが、取り組んだ成果は組合だけでなく、事業所にも直接還元されるこの種の補助事業は、機会があれば今後とも大いに取り込んでいきたいと思っています。

- ⑥ 組合の支部は極めて重要な組織として位置づけられます。支部あつての組合といっても過言ではありません。これまで以上に、支部の意見・意向を十分に尊重し組合運営に生かしていきたいと思っています。そのため、今年度から支部長会を復活し、事前の根回し等を十分に行っていくこととしました。組合員の一人ひとりが、ぜひ

所属支部の運営・活動に協力をいただき、また、相互扶助の精神に則り、助け合っていたきたいと思っています。

- ⑦ 顧客の掘り起こしは容易ではないでしょうし、時間がかかる部分もあると思いますが、リフォーム相談窓口の開設、組織的な社会貢献活動、ホームページ上の顧客向けコーナーの開設など、考えられるものをできるところから取り組み、着実な顧客確保の環境整備を図っていきたいと思います。

紙面の都合上、私の思いの全てを述べることはできませんが、常に組合員の皆様の日線に立って、組合運営を進めていきたいと思っています。

役員体制も緩やかな世代交代を進めることができました。これからは、若い世代の意見も大いに反映されることと思いますし、また、そうなるように期待もしております。

おわりに、今一度、組合員の皆様のご協力をお願い申し上げまして、理事長就任のご挨拶とさせていただきます。

## 第64回 全国建築板金業者青森大会に参加して

今年の全国大会は青森県で5月11日の前夜祭、12日に本大会が開催されました。3月11日に発生した東日本大震災の被害が余りにも甚大で、開催すら危ぶまれましたが、ふたを開けてみれば記憶に残る素晴らしい大会でありました。以下、参加者の感想を掲載致します。

### 全国板金業者青森大会での感想

経理担当 島田 孝二

5月10日寝台特急 日本海で寝不足になりながら、一路青森へ。

到着後青森市内の観光を終えて夕方に宿泊する青森サンルートでしばらく休憩の後、全国大会では珍しい前夜祭が終わってからの催し物、ねぶたの特別運行が行われました。

見学の場所へみんなで移動、しばらく待っていると道路幅一杯の極彩紙色に輝くねぶたが登場！前列には、各都道府県板の



大通りを大迫力でせまる「ねぶた」

理事長が提灯を持って並び、その後ろに跳ね子の皆さんが正装でラッセラー、ラッセラー、その後ろには大型のねぶたが練り歩き、その後ろからはダーンダダン、ダーンダダンと近づいて

くる太鼓と鉦や笛の音が絡み合っ心騒ぎます。

この太鼓や笛の音には日本人には堪らない感情が湧き出て元気がでます。ねぶたの前には、頑張れ日本！負けるな東北！の文字がくっきりと照らし出されています。私は我を忘れて写真や動画を撮り、大声で掛け声もかけたように思います。

その動画や写真は、「総合建築板金シマコー」を検索すればブログで見ることができます。

翌日は本大会でテープカットの時もねぶた囃子で大太鼓や、鉦で全国から集まった同志を迎えてくれました。



「ねぶた」の囃子方メンバーのお出迎え。太鼓と鉦と笛の音色が心地よい。

式典では勝又理事長のとても心に残るご挨拶から始まり、順次、滞りなく式典は進んでいきます



第64回全国建築板金業者青森大会

が、最後に勝又理事長の引退セレモニーもあり、感謝の思いと寂しさもあり、目頭が熱くなったことを覚えています。

勝又理事長並びに柴田専務、長い間本当にご苦勞様でした。

前回の石川大会では記録に残る大会でありましたが、今回の青森大会では、記憶に残るとても素晴らしい大会であったと思います。

今回は関東甲信越ブロックの山梨大会です。是非皆さんと参加したいと思っております。

## 「青森で感じたこと」

副理事長 越田 辰夫

初めに東北大震災で被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。

第64回の全板大会は晴天の元、青森の地で盛大に開催されました。1年前の石川大会での思い出が走馬灯のように浮かんで来て、ああだったこうだったと過ぎ去った時間の瞬間の事柄を思い出します。

今年の青森大会の前夜祭は市内の大通りを通交止めにして「ネブタ」の巡回が行われ、全国から集まった板金業者を大



「ねぶた」を待つ。本部の女性を交えて県板の面々に

に楽しませてくれました。昼間見た展示場でのネブタは何基もの展示の中では小振りに感じましたが、大通りに引き出されて目の前に現れたそのネブタは圧倒的な迫力で見ると迫り、太鼓と鉦と笛の音色と相まって、なんとなく懐かしい調べが体の中にしみ込んでくるような感じがして、派手な色彩も華々しく輝いていて同じ作品とは思えないほど美しく見えました。

大通りを封鎖して行われた「ネブタ」巡回は東北人の熱い思いを目の当たり見せて頂きました。又、多くの市民の方たちの参加もあって、全員で作上げるこの祭りは東北人の熱さ、粘り強さ、頑張り強さが表れていると感じ入りました。これだけの強い意志があれば今回の大災害に対しても決して負けない強い忍耐で乗り切って行けるだろ

う、必ず再生の道を開いていけるだろうと強く感じ取ることが出来ました。今回の青森大会についてはあまりの被害の大きさに我々としても当然の事のように中止を予想しておりましたが、東北3県からの強い要望と元気になってもらいたいという全板執行部の想いが合致して見事な大会となりました。

石川県から団体参加した皆様は、夜行寝台という11時間に及ぶ長い旅で、列車が停止と発進の度に、ガクッと来るショックに睡眠を妨げられながら到着した青森駅でしたが、迎えに来ていたバスガイドさんの「来てくれてありがとう」という感謝の言葉を聞いて東北の人達の持つ優しさと人情、内に秘めた情熱を感じました。

石川県板金工業組合の名前入りのジャンパーを着ていますと、全国から来られた同業者の方達が行く所々で声が掛り、去年の大会は素晴らしかったというお褒めの言葉を数多く頂きました。とくに多かったのが女性が演奏する「炎太鼓」が素晴らしかったという感想でした。

多くの方たちの支えで出来た大会であったと今更に感謝の気持ちで一杯になりました、今後もお返しに出来るだけ大会に参加していきたいと思った次第です。青森そして東北の関係者の皆様素晴らしい大会でした。有難うございました。参加の皆様も道中何事もなく無事に帰れましたことに感謝いたします。

## 副理事長就任にあたり

副理事長 道下 千代治

今年度の役員改選で副理事長に指名され早4ヶ月。責任の重大さに驚いております。引き受けたからには自分に出来る限りやるつもりです。

今まで役員になってよく聞く言葉がメリットが無いと言う言葉です。メリットが無いから組合を辞めると聞くと役員としては一番つらい言葉です。役員としては皆一生懸命やっているつもりですが届いてないことがあるかと思えます。

メリットとは個人により違うと思いますが、

私個人としてはいろんな人達（能登～加賀）と出合ったことや情報交換が出来たことが一番のメリットだと思っております。

又、全国大会（青森）にしても参加したからこそ東北の人達の大変さを感じる事が出来、参加して良かったと思っておりますし、参加することにより見たり聞いたりすることでメリットがあったと感じることが出来るんだと思っております。私たち役員は一つでも皆さんに良かったと思えるように二年間頑張っていきます。

\* もう一度各委員会の中でのメリットという物を自分なりに考えたい。

# 第41回通常総会

第41回通常総会・第1回理事会、議案を原案どおり承認。  
役員改選では緩やかな世代交代進む。

第41回通常総会及び第1回理事会は、平成23年2月7日(月)に開催通知され、2月20日(日)、午後2時より山代温泉・ゆのくに天祥において開催された。

総会に先立ち、道下千代治総務委員長の進行に



理事長表彰を受ける方々

より平成23年度理事長表彰式が執り行われ、組合功労者表彰には新谷茂平氏(有)新谷板金工業所)、支部功労者表彰には、小林謙治氏(有)小林板金工業所)、村井征栄氏(村井建築板金工業所)、北村利治氏(北村板金工業所)、中村春男氏(中村板金)、北村哲夫氏(北村建築板金)、刀禰喜久夫氏(リビングショップとね建築板金)、藤上恵右氏(藤上建築板金)がそれぞれ受賞した。また、優秀従業員表彰では織田隆一氏(有)ゴトー板金)、大石健太氏(有)プリキンながい)、坂口茂氏(株)タケノ)が受賞した。

通常総会は、議決権及び選挙権行使者168名(本人出席80名、書面議決権58名、委任状30名)の出席を得て、灘地紀夫専務理事の司会進行の下、越田辰夫副理事長の開会の辞をもって開会された。来賓として、岡田直樹参議院議員(林泰三秘書代理出席)、小川慶二富山県板金工業組合副理事長、清水弘福井県板金工業組合副理事長の臨席をいただき、岡田直樹参議院議員、小川慶二富山県板金工業組合副理事長からそれぞれ祝辞をいただいた。

議長に加賀支部の藤間政博氏を選出した後、議長から各議案の上程がなされ、第1号議案「平成22年度事業報告及び収入支出決算報告に関する件」

(趣旨説明：越田辰夫副理事長、島田孝二会計理事)、第2号議案「平成22年度剰余金処分(案)に関する件」(同：勝泉完理事長)、第3号議案「平成23年度賦課金徴収方法(案)に関する件」(同：勝泉完理事長)、第4号議案「平成23年度借入金残高の最高限度額(案)に関する件」(同：勝泉完理事長)、第5号議案「平成23年度事業計画(案)及び収入支出予算(案)に関する件」(同：越田辰夫副理事長、島田孝二会計理事)がそれぞれ原案どおり議決承認された。



挨拶する勝泉理事長と参加組合員

引き続き、議長から第6号議案「任期満了に伴う役員改選に関する件」が上程され、改選の必要性の説明の後、従来の慣例により指名推薦方法で役員選出を行いたい旨の提案がなされた。指名推薦方法について出席者全員の賛成が得られたことから、議長一任により被指名人選考委員を各支部長として選考に当たることとなり、暫時休憩に入った。休憩の間、選考委員は別室にて、理事長推薦及び支部推薦による役員候補者について慎重に審査、協議を行い、被指名人名簿を作成した。

議場が再開され、被指名人選考委員を代表して、金島敏郎小松・能美支部長から理事48名、監事3名の被指名人名簿が報告された。議長からこの被指名人一人ひとりについて賛成・反対の確認がなされ、報告どおり全員の被指名人が役員として承認された。

すべての提出議案の議決が終了したので、議長が降壇し、再度休憩に入った。休憩の間、別室にて、新役員による第1回理事会が開催された。

第1回理事会において、「特任理事及び交流特別委員会の設置に関する件」及び「理事長、副理事長、専務理事及び常務理事の選任に関する件」の2件が議題について審議が行われた。いずれの議題についても原案どおり議決承認された。新しく選任された理事長、副理事長、専務理事及び常務理事は次の方々である。

## ■平成23年度理事メンバー

理事長(代表理事)	勝泉 完(河北支部)
副理事長(経営総括担当)	越田 辰夫(小松能美支部)
〃(総務総括担当)	道下千代治(鳳珠支部)
〃(事業総括担当)	右近 義治(金沢支部)
専務理事(運営総括)	田嶋 隆俊(員外)
常務理事(経理担当)	島田 孝二(小松能美支部)
〃(総務委員長)	内尾 孝夫(石川支部)
〃(アクションプラン委員長)	永井 紀久(金沢支部)
〃(経営調整委員長)	松田 茂樹(河北支部)
〃(技術技能委員長)	上出 順司(加賀支部)
〃(責任施工保証委員長)	山本 政博(小松能美支部)
〃(広報委員長)	越村 正志(金沢支部)

特任理事 (交流特別委員長) 町出 昭彦 (加賀支部)  
 常務理事 (青年部長) 林 高史 (能登支部)  
 〃 (加賀支部長) 中川 善樹  
 〃 (小松能美支部長) 後藤 栄次  
 〃 (石川支部長) 笹木 耕治  
 〃 (金沢支部長) 高田 武夫  
 〃 (河北支部長) 西盛 敬太  
 〃 (羽咋支部長) 藤井 清嗣  
 〃 (能登支部長) 大湯 義光  
 〃 (鳳珠支部長) 大屋音喜智

第1回理事会終了後、総会会場において再任された勝泉完理事長から挨拶があり、新しい役職員の紹介があった。

この後、出席者からの質問、提案等意見交換が

あり、「総会でその他の議案がないのはおかしいのではないか」とする旨の質問があった。これについては、次期通常総会において自由意見交換の時間を用意することとなった。

以上、第41回通常総会は、終わりに当たり道下千代治新副理事長の閉会の辞をもって滞りなく終了した。

総会終了後は、18時から懇親会が開催され、来賓として奥田建衆議院議員、米澤賢司石川県議会議員、安田慎一石川県中小企業団体中央会専務理事、小川慶二富山県板金工業組合副理事長、清水福井県板金工業組合副理事長、山田泰一郎(株)南部屋代表取締役の臨席をいただき、和やかな雰囲気の中で親睦を深めた。(文責：専務理事)

## 石川県板金工業組合青年部

### 平成23年度

# 第34回 通常総会

青年部長 林 高史

石川県板金工業組合青年部の平成23年度(第34回)通常総会は、2月19日(土)午後2時から「テルメかなざわ」(金沢市)で開催しました。

県内から青年部員45名の他、来賓として当組合理事長の勝泉 完氏、会計の島田 孝二氏にご臨席頂きました。

勝泉理事長からの祝辞では昨年5月に開催された、全国建築板金業者石川大会に際しての、青年部からの尽力に対する感謝を述べられました。

議案審議では、平成22年度事業報告・決算報告及び平成23年度事業計画案並びに収支予算案は満場一致で原案通り承認され、任期満了による役員改選では新役員が選任されました。

また、共販担当部長の勝泉 昌紀氏による共販活動の説明と協力依頼を行い閉会しました。

総会終了後には、ケイミュー(株) 営業企画部ソリューショングループ 山田氏による「住宅市場の変化」と題し研修会を開催しました。懇親会では米沢賢司県議会議員も同席し、大盛況のうちに終わることが出来ました。

最後に前期では多くの方々に助けて頂きながら勤めてまいりました。今年度もさまざまな事業を予定しています。青年部員には、年間事業を通して部員同士の交流を持ち、共感できる仲間作りや求められている技術レベル、経営者としての資質向上の目標をもってもらい、楽しく青年部活動を行って頂きたいと考えています。皆様よりご指導

いただきながら、新役員とともに青年部が益々活気付けるように参りたいと思います。

石川県板金工業組合青年部				
平成23年度役員				
部 長	林 高史	能 登	金 沢	能 登
副 部 長	土 山 和朗	金 沢	金 沢	金 沢
副 部 長	浅 井 康扶	石 川	石 川	石 川
会 計	林 勇 吉	河 北	河 北	河 北
事 務 局	中 野 忍	羽 咋	羽 咋	羽 咋
幹 事 長	甲 藤 正人	鳳 珠	鳳 珠	鳳 珠
幹 事	岩 坂 智文	鳳 珠	鳳 珠	鳳 珠
〃	脇 田 良弘	能 登	能 登	能 登
〃	大 湯 義隆	能 登	能 登	能 登
〃	山 田 勇気	羽 咋	羽 咋	羽 咋
〃	九 谷 安治	金 沢	金 沢	金 沢
〃	木 戸 道春	石 川	石 川	石 川
〃	森 公 宏	石 川	石 川	石 川
〃	山 路 英樹	小 松	小 松	小 松
〃	下 坂 雄一	小 松	小 松	小 松
〃	越 田 剛司	加 賀	加 賀	加 賀
〃	前 山 潤一	加 賀	加 賀	加 賀
〃	中 出 伸一	河 北	河 北	河 北
監 査 役	能 任 矢寿男	河 北	河 北	河 北
共販担当部長	勝 泉 昌 紀	河 北	河 北	河 北



## 総務委員会

総務委員長 内尾 孝夫

総務委員会を担当する内尾孝夫です。この総務委員会では4つの委員会（技術技能・保証・アクションプラン）を担当します。総務委員会は、福利厚生委員会と総務委員会を一つの委員会に併合したものであります。そのために委員会は総務統括の副理事長と全支部長の他青年部長と理事5名と数も多く仕事も多岐にわたっています。

今年度の取り組みとしては、まず平成21年2月に定款の改訂を行なっています。尚総会資料と一緒に定款と組合員名簿を送付させていただきました。このことに伴い規約と規定（支部規定・委員会規定・慶弔・見舞金規程・旅費規程・表彰規定・青年部規定）を変更した定款に合わせるように改訂の作業を行い、今年度中に改訂作業を終わらせ平成24年度の総会に於いて改正の議決をいただき24年度より運用を開始したいと思っています。

福利厚生関係としては、定期健康診断の受診を推進する方向での検討をおこなっていきます。特に全板国保の加入者が健康診断を行えば、費用に関しては15,000円以内なら全額を全板国保で補填されます。

このことは、集団検診にかかわらず個人にて病院での検診も可能です。但し、窓口にて費用を支払い領収書と診断書を県板事務所まで届けていただければ、後日個々の口座に費用の全額が振り込まれます。

追伸 全板青森大会に参加して。

全板青森大会についても昨年度の総務委員会に於いて、旅行日程を検討されたものであります。大震災の後でもあり参加組合数に於いても予定人数にやや足りなかったものの、他県に比べればおおくの参加人数であったと思います。尚、昨年石川大会は、記録と記憶に残る大会であったと思っています。全板においても非常に高い評価をいただいております。今回の青森大会は、前夜祭でのねぶたの運行と本大会そのものが復興にける意気込みがひしひしと感じ、記憶に鮮明に残る大会でありました。参加された組合員の皆さまお疲れ様でした。来年度は、山梨大会であります。旅行日程についても多くの組合員が参加できるよう検討を総務委員会で重ねますので、ご協力のほどよろしくお願い致します。

## アクションプラン推進委員長就任の挨拶

アクションプラン推進委員長 永井 紀久

このたびは、石川県板金工業組合アクションプラン推進委員会の委員長という大役を仰せつかり、自身まだ現役の青年部員であることに加え、経営者としても今年で5年をようやく超えたばかりの未熟者にとりましては、正直申し上げて驚きと戸惑いを隠しきれませんでした。いくら若返りを図る目的で人選したとはいえ何故自分が？と勝泉理事長に聞いたあたりもしました。しかし理事長が言われるこれからの業界は、新しい感性と新商品・新技術にいち早く対応する積極性、さらには青年部で培った強い仲間意識のなかでお互いを高めていく協調性、そして何よりも社会全体にその存在を知らしめるための信頼性を得ることが一番大切であり必須条件だ、という言葉にあらためて組合活動の意義と誇りを感じそのお手伝いが私にもできるのなら、と引き受ける決意をいたしました。

このアクションプラン推進委員会というのは、既存の委員会とは違い何かに特化して活動するのではなく、これからの板金工業組合のあるべき姿を様々な観点から見だし、その一つ一つを確立する為の指針作りと理解しております。平成20年12月に発行された「活路開拓のための行動計画」によると、大きく6つの項目にわたり第1期5カ年のスケジュールが記されている。

- 一、組織力と底力のある組合運営
- 二、目標と活力のある事業展開
- 三、信頼と責任のある施工
- 四、組織的、計画的な人材育成・確保
- 五、情報の有効適切な収集及び提供
- 六、消費者への多様なPR

本年度は3年目を迎え、人材育成という観点で中小企業庁の政策である「新卒者就職応援プロジェクト」を実施し職場体験（インターシップ）により業界への若年層の取り込みを図っておりますが、目標人員には届かなかったものの数人の若者が新たに業界の仲間入りに向けて頑張っています。その他の分野に関しても各支部から選出された委員の方々と議論を重ね、各種委員会の皆様のお力をお借りしながらアクションプランを推進していく所存です。

最後になりましたが、今年の6月で、4期8年に亘る全板連青年部役員、そのうち最期の1期2年は全板連青年部長という身に余る立場で責務を終えることができましたことをご報告するとともに、これまでの皆様のご支援とご協力に深く感謝申し上げます。これからは石川県板金工業組合の一員として、青年部時代の経験を活かしつつ、皆様のご指導ご鞭撻を仰ぎながら頑張っていく所存でございますのでよろしくお願い申し上げます。

## 経営調整委員長就任にあたり

経営調整委員長 松田 茂樹

ご挨拶の前に、先の東日本震災に会われた方々には心よりお見舞い申し上げます。

今、震災以前より私たち業界はもとより各業界が、サブプライム、リーマン等の直接私達には関係のない所で起こっていることで、大変な不況のあおりを受けてまいりました。

そのような時期に理事長より委員会のお誘いを受けましたが、地元の河北支部の事業もまともに遂行していないのはもとより、我が事業所自体も大揺れしている時にいかなるものかと思いましたが、諸先輩方の自然体で臨んでくれ、県板の若返りをという言葉をいただき、若くはないのですが、今は昔の青年部時代を思い出して大役をお受けすることにしました。

まだ委員会の内容を網羅しておりませんが、はじめの一歩で頑張ります。

## 責任施工保証委員会

責任施工保証委員長 山本 政博

平成23年度の責任施工保証委員会活動計画は、責任施工保証制度への自主検査の導入で組合保証の在り方、工事標準書、申請手続き、検査料の見直しです。さらに未受講者、全過程未受講者に対して責任施工マニュアル講習会を開催し、さらにPL保険への加入で、全組合員が責任施工保証認定事業所になるように活動していきたいと思っております。

板金工業組合には、責任施工保証制度があることを、行政機関・建築設計事務所・一般消費者にPRし、組合員の皆様にはこの保証制度を使っていただき、責任施工保証書を発行する事により、工事受注が増える様にと願っております。

また、検査委員会、北陸三県責任保証委員会と共に共通の課題についても改善に向けた取り組みを図り活動していきたいと思っております。

今年度から常務理事になり御迷惑をかけることがあると思っておりますが、組合員皆様のご協力をお願いします。

## 広報委員会活動目標

広報委員長 越村 正志

前年度に引き続き、広報委員長をさせて頂くこととなりました。

広報委員会の活動としては、広報誌「からかみ」の企画、編集、組合PR、DVDの活用、組合ホームページの運用、その他、新聞広告、タウン誌広告、テレビCM等、広く一般ユーザーに向け、建築板金業界をアピールする活動があります。以上4つの柱を中心として、活動を行ってまいります。

今年度は、広報誌「からかみ」を、組合員の枠を超えた配布や、組合ホームページの充実等、広く一般に向けた広報活動を展開していきたいと思っております。

## 技術技能委員長に任命されて

技術技能委員長 上出 順司

今年度、技術技能委員長に任命していただき、誠にありがとうございます。

若輩者の私に多大な重責を任せられ、不安な気持ちで一杯ですが、組合員皆様のご協力を賜り、がんばっていく所存でございます。

緒先輩方の築き上げられた実績をより一層堅固な、そして、組合員の皆様のためにふさわしい委員会造りを心掛けて行きたいと思っております。

まず、技能検定に関する事項では、組合で講習会を開催し、受験者全員の合格を目標に取り組んでいきます。また内部の講師の育成として、事前に講習会を開催し、新しい講師の育成に挑みます。

そして、石川の技能まつりの多数の参加を心掛け、今年度の課題も変更し、材料費の節約をし、レベルを下げないで挑める銅板の水差しの製作に取り組んでいきたいと思っております。

## 今年度交流特別委員会としての方針

交流特別委員長 町出 昭彦

常日頃組合員の皆様方のご協力、心よりお礼を申し上げます。

今年度はからかみも交流特別委員会の委員長をお引き受けする事になりました。前年度以上に組合員皆様方のご協力よろしくお願い申し上げます。

さて委員会としての方針であります。四つの項目に取りくんで行きたいと思っております。

まず第1に、問屋会との懇談会（組合からの要請及び問屋会からの要望等）

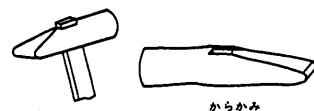
第2は組合員の親睦イベントの実施（できれば全板国保の助成対象となるイベント等）

第3に中小企業団体中央会へのゴルフ大会への参加、第4に通常総会並びに福祉共済審査会等の懇談会等の企画運営

以上の4項目を今年度頑張ってお礼の旨に喜んで頂ける用に務めて参りたいと思っております。委員会一丸となって頑張ります。どうかよろしくお願ひ申し上げます。

## 表題の由来

からかみとは、かつて銅板の打ち出しや、外壁、水切等の施工にも欠かせなかったハンマーです。金槌、木槌の中で板金職人にとって一番広く用いられた型のハンマーでありました。合理化、機械化の進む中であっても手作業、手作りの味をどこかに残したいと願って銅板だより表題と致しました。



からかみ

## 一級、二級技能検定講習会の開催にあたって 技術技能委員長 上出 順司

平成23年度の前期技能検定の講習会が、6月10日より職業訓練校で開催されます。例年通り開催されますが、講習会に参加すれば即合格出来ると思われている方がいますが、国家資格の試験ですのでそんなに甘くはありません…。講習会に参加すれば制作出来る様になれますが、ここからが正念場です。いかに、早く正確な製品に仕上げられるかが問われるのです。皆さんが一生懸命に製作

した作品ですので、すべて合格させたいのですが、合格基準を満たさない作品は合格となりません…。では、どの様にすれば合格出来るのか、それは簡単です。いかに、自分の苦手な個所を徹底的に克服し、時間内に正確な製品を作成させれば良いのです。そのためには、練習有るのみなのです。受験生の方には、ぜひ頑張ってください、合格されますことを期待いたします。

### 石川の技能が集結！

## 第38回 石川の技能まつり開催報告

前 技術技能委員長 笹木 耕治

「第38回石川の技能まつり」は平成22年10月3日(日)石川県産業展示館3号館と石川職業能力開発促進センターの両会場にて開催され、昨年同数の多くの来場者で大変な賑わいを見せました。

このまつりは、「磨こう 伸ばそう 石川の技能」をテーマに各職種団体の紹介や技能コンクールの実施、ものづくり体験コーナーを設置し、大人から子供まで楽しみながら技能に対する関心を深めてもらうことを目的に毎年開催されています。

開会式では、板金組合において永年にわたり職業能力開発の普及・啓発に功績のあった職業能力開発功労者知事表彰に金沢支部の右近義治さんに賞状と記念品が贈られました。

### 第38回 石川の技能まつり



功労者知事表彰の右近さん  
(後列左より4人目)

■技能コンクール・石川の名工コーナー  
技能コンクールでは、各支部から選出された9名の選手が、昨年同様0.4銅板手桶に制限時間4時間30分を費やし腕を競い合いました。事前講習会において、技能コンクールにふさわしい密度の高い製品、職人としてのプライドある仕上がりを切にお願いしたところ選手の皆さんはその事をしっかり受け止め、評価の高い技能コンクールとなりました。来場者は、日頃間近に見ることのできない数々の職人の技を目のあたりにし、繰り出される妙技を真剣に見守り銅板手桶は、完成前



競技にはげむ選手達



銅の折鶴の出来るまで

の完売状態となり大好評でした。

石川の名工コーナーには、昨年現代の名工にえらばれた灘地紀夫さんの銅板鬼・菱茸きを主にした額が展示され、来場者は匠の技に感心しきりでした。

### ■板金展示・体験コーナー

開会式と同時に、保障委員会・技術技能委員会でファインスチール責任施工保証制度パンフレット、屋根・外壁・雨樋改修工事相談開催中のチラシを配布し、来場者に板金工業組合をアピールしました。

表札・折鶴コーナーでは、例年と同様予定人数20名の体験者にモノづくりの魅力を実感していただき、参加者は自分の作った表札・折鶴にご満足げな顔で会場を後にされました。板金展示会場では、今回職人の技を重点に銅板アンコー・鍛金製品を展示、また、モニターでの「景観を守り、造り出す職人たち建匠」全板大会で使用したDVDを放映し、組合員の職人魂の健在ぶりを印象つけました。



展示された板金・鍛金

技能コンクール選手、関係者の皆様、本当にお疲れ様でした。第39回石川の技能まつりには、全組合員が来場者となるようご協力をお願いいたします。会場は、熱く燃えています。



モミヂ折鶴を手分けして指導する



モミヂの作り方を指導する

### 石川県板金工業組合のホームページ

組合ホームページができて約6年が経ちます。ページによっては、更新が遅れたり、昔のままだったりしている箇所があります。名簿においても出来るだけ変更等の更新は行っていますが、未変更・誤字等があるようです。今年度中には、ホームページの見直し・確認をしたいと思っております。

できるだけ、新しい情報をオンタイムで組合員の方々にお知らせしていきたいと広報委員会では思っております。まずは、皆さん自分達の組合のホームページを見てください。

■組合ホームページアドレス <http://www.ishikawa-bankin.jp/>

検索してもOK!

石川県板金工業組合

検索

### あとかき

3月11日に東北地方を中心に、甚大な被害を及ぼした、東日本大震災で被災された方々、又、我々の仲間の多数の組合員も被災され、大きな被害が生じました。謹んでお見舞いと、お悔やみを申し上げます。

5月12日に青森県におきまして、全国建築板金業者大会が、全国より、3000余名の参加にて復興日本をテーマに盛大に開催されました。今、こうして平凡な日常を過ごしている事に感謝して、この度の、全国建築板金業者大会が、復興日本、復興東北の礎になる事を、心よりお祈りしています。

広報委員長 越村 正志